総合的な学習の時間　「こだわり」「かかわり合い」「ふりかえり」のある追求によって自分の生き方を考える総合的な学習の時間の在り方

1　総合的な学習の時間で願う豊かな学びの姿

総合的な学習の時間では，「豊かな学びの姿」を次のような姿と考えている。

○ 自分の実感・納得を大切にしていく中で，自分なりの疑問や課題をもち，その解決に向けて考えたり行動したりする姿。（こだわり） ○ 他者の立場や視点を大切にして，目的に向かって他者と共に取り組み，ひと・もの・ことと積極的に関わる姿。（かかわり合い） ○ 取組を振り返る中で，自分のよさや可能性に気付き，自分の生き方について考えようとする姿。（ふりかえり）

学習指導要領では，総合的な学習の時間に育てようとする資質や能力及び態度の視点を，「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」「他者や社会とのかかわりに関すること」などと示している。この視点に対応し，「こだわり」「かかわり合い」「ふりかえり」というキーワードにして，目標を達成しようというものである。

本学校園での総合的な学習の時間は初等部後期ブロックから中等部ブロックでの学習となる。そして，各教科や保育において培った力をもとに探求的な学習をしていく場が総合的な学習の時間であると考える。総合的な学習の時間で身に付けさせたい力は学習を始めた時点から身に付いていくものではなく，その素地は初等部前期ブロックからはぐくまれているものと考えている。そして，各学年での発達段階や興味・関心をもとに，学習者自身が設定した学びを通して，徐々にその力が高まっていくことを期待している。

総合的な学習の時間の活動を通して，児童・生徒は様々なひと・もの・こととの出会いを経験する。出会った対象への興味・関心がこだわりとして学習課題に大きく反映される。そしてそれらとかかわり合う中で，対象が広がったり，関係が広がったりする。また，それらの関連性を見いだしながら学ぶことで児童・生徒の学習は深まり，自分自身が社会の一員であることに気付いていく。こうして深まった学びを子どもたち自身が振り返る過程で，自分自身で自分・他者のよさに気付くことができ，学習を通して得たものをどういかしていくかを含めた今後の生き方を考えるきっかけにもなることを期待している。

2　総合的な学習の時間において身に付けさせたい力

豊かな学びの姿を踏まえ，本学校園においては，総合的な学習の時間に子どもたちが次のような力を身に付けることをねらって各学年の発達段階に応じた学習活動を構成している。以下に挙げた力が身に付く過程で，子どもたちの思考力・判断力・表現力もより豊かなものになっていくことを期待している。

○ 見通しをもって考えたり行動したりする力。 ○ 自分のしたいことを見付けて追求していく力。
○ 自他の願いや考えを調整し，追求していく力。 ○ 多様なひと・もの・こととよりよく関わる力。
○ 見いだしたことを役立てようとする力。 ○ 自他のよさや可能性に気付く力。

これらの力は，豊かな学びの姿にある「こだわり」「かかわり合い」「ふりかえり」に基づいて三つに分類はしているのであるが，これらの力は独立して育つものではなく，それぞれが密接に絡み合って育っていくものである。よって，上の姿のようにはっきりと力として分けてはいない。それよりも，各学年の発達段階に応じて，より具体的な力としてそれぞれの学年段階，さらに単元を通して身に付けさせていきたい力として位置付けていくことが必要であると考える。こうした明確なねらいをもった活動の中で個々の追求を積み重ねていくことにより，子どもたち一人一人が自分自身の興味・関心に基づいて課題に対して問い続け，学び続け，自身を振り返るサイクルがより実りあるものとなる。そして，個々の資質・能力が高まっていくのである。

3　総合的な学習の時間で身に付けさせたい力を育成するために

(1) 学びをいかす

総合的な学習の時間において学びをいかすとは，各教科等で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け，それらが総合的に働くようにすること，そして，総合的な学習の時間で身に付けた資質や能力及び態度を各教科等でいかしていくことと考える。また，子どもが総合的な学習の時間で学んだことを学校での学習のみならず，実生活に還元することも学びをいかすことになるであろう。

そのためには，どんな力を子どもたちに身に付けさせたいかを明確にし，必要性のある学習を仕組んでいくことが必要不可欠となる。総合的な学習の時間の学習材料・単元構成に応じて，子どもから引き出せる力は変わってくるだろう。これらの力を子どもたちが自覚し，個々が資質・能力を高めてその後にいかしていくようにするためにも，ふりかえりの時間を重視したい。そうすることにより，子どもたちは個人でじっくりと活動した意義を考えることができ，それらを出し合うグループや集団全体の場で他者のそれと共感したり比較し合ったりするであろう。こうした一連の流れによって活動の価値を個々に自覚することを大切にしていきたい。

(2) 学び合い

総合的な学習の時間においては，ふりかえりとしての学び合いを重視したいと考える。各自がこの学びにはどのような意味があったのか，ともに学んだ仲間で振り返ることにより，学んだことがより個に還元されると考える。つまり，(1)で述べたようにふりかえりにおける学び合いの価値を重視するということである。学び合いが単なる学習，活動という形で終わるのではなく，自分たちの行ったことを振り返ることが，学習及び自身の活動の有用感を子どもたちに実感させることになるだろう。

昨年度までの実践から，ふりかえりが有効にはたらいた例を述べる。小学６年生の実践では，下級生のことを考えて企画・実践する夏祭り等の「子どものお店」の活動がある。ふりかえりの時に下級生からの実際の声を聞くことや，一緒にお店を運営した仲間と内容を振り返った。そのことにより，次回のお店の計画が相手の立場をよく考えることを大切にして，個々の動きの計画がより具体的なものになったり，シュミレーションの時間をしっかり取って見通しをもつことを重視することへとつながったりした。また，中学校では，各学年で学習のまとめとして発表会を行う。その際，３年生は２年生に，２年生は１年生に対面発表を行った。他学年の学習発表会に参加することで，次年度への見通しをもって考えたり行動したりする力が身に付いていった。また，対面発表時に下級生からコメントをもらうことで，自身のふりかえりをより確かにすることができ，実際に活動したことに対しても意義を感じることができた。

総合的な学習の時間は，異年齢間での学び合いも設定することができる。また，学習課題にもよるが，個人による学習，グループによる学習，学級・学年全体による学習など多様な学習形態を効果的に取り入れることも必要であろう。

(3) 教師のはたらきかけ

総合的な学習の時間においては，学習活動を進めていく上で，目的意識・相手意識を高めていくことが必要である。また，収集した情報も膨大なものになるので，それらを相違点や共通点などの視点に整理し，子どもたちが見通しをもち，個々で課題を明確にできるように導いていけるようなはたらきかけが必要である。

これらのことをより実りあるものにしていくためには，教師が子どもたちの活動の様子を具体的にとらえていくことが必要不可欠である。基本的に学年全体の取組として行われるので，学年部間で教師同士の情報交換が大切であるので，ねらいや身に付けさせたい力が明確なものでなければならない。それを踏まえ，上記の意識の高まりをねらうためにも，子どもの意識がそれないように随時方向付けたり，提案したりすることが大切である。

そして，ふりかえりとしての学び合いを重視する中で，教師はタイミングと内容を熟考した上で個々の子どもや集団にはたらきかけることが子どもたちの学び合いの質を高めるために重要となる。教師は学び合いのコーディネーターとして個々の子どもの取組をとらえ，はたらきかけに生かし，やがて集団の学びが高められるようにしていきたい。

（文責　岩﨑　香織）

身のまわりの草や木で遊ぼう

１　目標

校庭に生えている草や木などの身の回りの自然素材をもとにして，遊びたいことや作りたいものを見付け，その自然素材の特徴やいかし方をくわしく調べることができる。また，自分が興味をもって調べたやり方で友だちと遊んだり作ったりする活動を通して，自分の追求のよさや，友だちの追求のよさに気づく。

２　本活動で育成したい資質や能力

○ 身の回りの自然素材から，自分が遊びたいことや作りたいもの，知りたいことを見付けて追求する力（こだわり）

○ 自分が調べて考えた方法で，友だちと遊んだり作ったりする活動を計画・運営する力（かかわり合い）

○ それぞれが興味をもって調べたやり方で遊んだり作ったりする活動から，自分の追求のよさや友だちの追求の良さを感じる力（ふりかえり）

３　活動の流れ（全70時間）

○ 友だちと草花遊びをしよう（全30時間）　○身のまわりの草や木で遊ぼう（全40時間）

４　願う姿と子どもたちの取組より

⑴「友だちと草花遊びをしよう」

① この活動で願う姿

オオバコずもうをきっかけにして，身近な草花を使って他にどんなことができるのか，本で調べたり，校庭に生えている草花を手にとって試したりして，自分が友だちとしたい遊びを考える。さらに，班の友だち（４名または５名）と，自分が考えた遊びで15分間遊ぶ計画を立て，楽しく遊ぶことができる。

② 子どもたちの取組より

【主な学習の流れ】

１　オオバコずもう	２　校庭にはどんな草があるかな
３　校庭の草でなにができるかな	
４　グループで遊ぶ計画を立てよう	
５　グループの友だちと遊ぼう	６　ふりかえり

子どもたちは，自分が気に入った自然素材をもとに，班の友だち３～４名と15分間を楽しく遊ぶ方法を考えた。準備の段階では，遊び方の説明がきちんとできるか，この材料でうまく遊べるか，何度も試行して検討する姿が見られた。また，ふりかえりにもあるように，友だちが楽しんでくれたことへの喜びや，友だちの工夫のよさを感じ，「次にするときはこうしたい」といった目標をもつこともできた。

> 今日，草遊びをしました。自分が考えた草遊びを，はんの友だちとしました。やってみると，とても楽しそうにやってくれて，すごくうれしかったし，やってよかったなあと思いました。Ａくんのは「しばずもう」で，わたしはまけたけど楽しかったです。Ｂちゃんのはわたしと少しちがって，シロツメクサとクローバーずもうでした。花と葉をいっしょにやるなんていい工夫だなあと思いました。何重にも重ねてやって楽しかったです。Ｃくんのは草野球でした。バットの形がへんで，ホームランはあんまり打てなかったけどおもしろかったです。とても楽しかったのでまたしたいです。　（児童Ｄ）

> 今日は，はんのみんなと遊びました。わたしは，シロツメクサとクローバーのすもうをしました。計画通り，せつ明は２分，作るのは０分，遊ぶのは13分でうまくできました。１はんのみんなもすごく楽しそうにやっていたのでよかったです。わたしは，Ｃくんの「草野きゅう」が１番おもしろかったです。おかげで，野きゅうのルールがよくわかりました。　（児童Ｂ）

> 今日，いきいきがありました。わたしは，せつめいのときにこんがらがってしまって，Ｅちゃんに手つだってもらいました。次やるときには，人に手つだってもらわなくてもやれるようになりたいです。がんばりたいです。　（児童Ｆ）

⑵「野草のお店を開こう」

① この活動で願う姿

前回のふりかえりをいかして，２名～３名の友だちと協力して45分間のお店を開くことができる。計画する中で，何度も試作してみたり，材料を集めたりしながら，自分の開きたいお店のイメージをはっきりとさせられるようにする。お店を開く中で，友だちの追求のよさや，友だちが喜んでくれたことによる達成感を味わえるようにする。

② 子どもたちの取組より

【主な学習の流れ】

1　遊べる草，食べられる草をさがそう
2　どんな草があったかな？
3　見つけた野草でできることを見つけよう
4　食べるお店・遊ぶお店・つくるお店を開く計画を立てよう
5　お店を開こう　　6　ふりかえり

児童Ｇのふりかえりにあるように，子どもたちは，使えそうなものを集めてきて，それについて本で調べたり，家庭科専門の教員に調理法を相談したりして，自分が選んだテーマについて深く追求していくことができた。

また，児童Ｈのふりかえりには，「量を多くした」や「品数を多くした」，「お客さんにいっぱいやってもらった」といった工夫が書かれているが，これらは，試作をしたり，45分間という時間を想定して活動を計画したりする中で，子どもたちが考えていったものである。「自分がお客さんだったらこんな風にしてくれると嬉しい」という思いを随所で実現している姿が見られた（**図１**）。また，児童Ｉは，どんぐりストラップのお店を開いたが，その際，試行錯誤を重ねる中で，木の枝とどんぐりを接着するためには、間にティッシュを挟むと安定することを発見した。そのことは，やはり友だちからもよさを認められ，大きな達成感につながった。ふりかえりには，さらに工夫したいことを書くなど，友だちに喜んでもらうことで，さらなる追求意欲を高めている姿がうかがわれた。

お店の計画を立てているときのふりかえり
今日は，食べられる草を探してとりました。最初に材料にしようと思っていた草は少なかったけど，いろいろなのをとって教室で調べてみたら食べられるものがたくさんありました。たぶんもっといっぱいあると思います。あとは本当に作ってみて，ちがう作り方を見つけたり，どうやったらもっとおいしくなるかを考えてみたいです。（児童Ｇ）

お店をした後のふりかえり
ぼくが工夫できたことは，量を多くしてお店に来た人にいっぱい食べてもらえたことと，いろいろな植物を使って，いろんな料理をつくったこと（品数）です。それと，お客さんにいろんなことをやってもらえたのもよかったです。ただ，天ぷらがしょっぱすぎて，お客さんが「少し気持ち悪い」と言っていたから，もっとしょっぱくなくしたほうがいいと思いました。店員３人でたん当を決めていたので，いろんな料理が一度に作れて，終わったら終わっていないところを手伝うことも，よくできたことです。（児童Ｈ）

お店をした後のふりかえり
さい初に，ひもと木とドングリをえらんでもらうところはうまくできました。でも，ティッシュを木にまくとき，間をあけるということを言っていなかったから，失ぱいする人がいました。だから，全部言ってからやり始めた方がいいと思いました。あと，かわかすとき，たおれたりしてティッシュにボンドがついたりしたから，もう少し工夫した方がいいと思いました。Ｇくんが「このお店に来てよかったぁ。」と言ってくれたのでうれしかったです。（児童Ｉ）

図１：お客さんが楽しめるように工夫してお店を開く

５　成果と課題

身の回りの草や木を素材として友だちを楽しませる計画を立てることで，子どもたちは，それぞれにこだわりをもってその素材を使った活動を考えることができた。その中で，身近な野草が食べられることに驚きを感じたり，木の実を使ってきれいな飾りが作ることができることに喜びを感じたりする姿が多く見られた。見付けたものから「何かできないかな？」と追求していくステップは，３年生には適切だったと考える。また，本校の子どもたちは６年生が開く「子どものお店」がとても好きで，お店を開くことにあこがれをもっている。したがって，６年生が，お客さんが楽しめるように工夫していることを，できるだけ真似しようとする姿が見られた。その結果，お客さんが喜んでくれたことが達成感につながり，お互いによさを認め合うこともできた。一方で，お店形式にすることで，「お客さんを楽しませる」ことが第１の目的になったため，素材についての追求が「食べられるか食べられないか」だけで終わるなど，知的な追求が深まりにくかったことは，本実践の課題であると考える。

目の不自由な方とのかかわりから考えよう

１　目標

アイマスクや点字などの体験や視覚障がい者支援施設への見学，目の不自由な方との交流を通して相手の立場を思いやり，目の不自由な方たちの生活を守るためにどのような工夫や配慮がされているのかを調べる過程で，様々な立場の人たちの考え方や感じ方を学び，自分の生活とのかかわりを見つめたり，自分にできることを進んで実行したりすることの大切さに気付く。

２　本活動で育成したい資質や能力

○ 目の不自由な方にとって住みよい社会について考え，自分にできることを適切に判断し，見通しをもって進んで行動する力（こだわり）

○ 目の不自由な方の立場に立って考えることで，相手を思いやり，よりよく関わろうとする力（かかわり合い）

○ 学習を通して得たことを交流の場に役立て，生かそうとする力（ふりかえり）

３　活動の流れ（全45時間）

○ アイマスク体験をしてみよう（全10時間）

○ ライトハウスライブラリーへ行こう（全15時間）

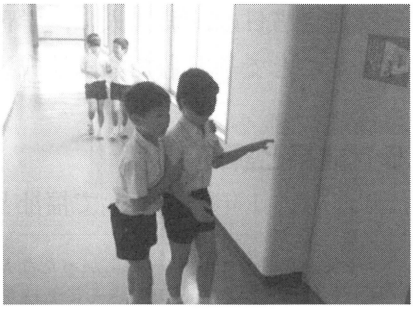
○ 目の不自由な方とのかかわりから考えよう（全20時間）

４　願う姿と子どもたちの取組より

⑴ アイマスク体験をしてみよう

① この活動で願う姿

アイマスク体験を通して感じたことをきっかけとして，目の不自由な方の気持ちを考え，支えるための施設や道具にはどのようなものがあるかを考える。



② 子どもたちの取組より

【主な学習の流れ】

1　アイマスクにふれてみよう

2　校内を歩いてみよう

3　目の不自由な方の思いを考えよう

4　目の不自由な方を支えるものにはどんなものがあるか調べてみよう

⑵ ライトハウスライブラリに行ってみよう

① この活動で願う姿

目の不自由な方を支えるための施設の重要性や便利な道具の存在を知って，自分たちにできることは何かということについて具体的に考える。

見学のふりかえりより
（波線は育成したい資質・能力に関わりのある部分）

ライトハウスライブラリーは，目の不自由な方でも目の見える人と同じように生活できるようにサポートしてくれる大切な場所だということがわかりました。点字ブロックがゆかにあると車いすが進みにくいです。だから，ライトハウスライブラリーにはゴム製のマットがひいてあります。病院などにも点字ブロックではなく，ゴムのマットがひいてあるところがあるのにはちゃんと理由があるということもわかりました。目の不自由な方と関わるときにはその方の気持ちになって行動したいなと思いました。（児童Ａ）

② 子どもたちの取組より

【主な学習の流れ】

1　ライトハウスについて調べよう　　2　実際に行ってみよう

3　見学して考えたことをまとめよう

4　自分たちにできることを考えよう　　5　ふりかえり

⑶ 目の不自由な方とのかかわりから考えよう

① この活動で願う姿

目の不自由な方や盲導犬と関わることを通して，みんながお互いに支え合うことの大切さに気付き，目の不自由な方に気持ちよく来ていただくために自分たちにできることについて話し合い，計画を立て，実行する。

② 子どもたちの取組より

まず，市内に住んでおられる二人の目の不自由な方に来ていただき，生活の様子や盲導犬との関わりについてのお話を聞いた。実際にお話を聞くことで，相手意識を高め，自分たちにできることは何かを考える姿が見られるようになった。

次に，目の不自由な方のお話から感じたことを話し合う中から，松江市内の施設に目の不自由な方のためのどんな工夫があるのか知りたいという思いが生まれ，調べる活動を行った。そして，２回目の交流会に二人の方に気持ちよく来ていただくために自分たちが校内でできる工夫について考えた。話し合う中で，点字や場所などの物理的なことだけでなく，「気持ちのよいあいさつ」「あたたかい言葉」など心理面での意見が出てきたところに，ここまでの学習を通して常に相手を意識して取り組んできたことが姿として現れた。

そして，市内の施設にある目の不自由な方のための設備について調べたことの発表とバリアフリーについて学んできたことの実践の場として，自分たちにできる「附属小バリアフリー」を作って実際に校舎内を歩いていただく２回目の交流会を計画した。

交流会当日は，お二人に，学習してきたことの成果を認めていただいたことで子どもたちは達成感を感じ取ることができた。

5　成果と課題

以下は，１年間を通して福祉という視点から学習を進め，最後の時間のふりかえりである。

> 今日の交流会で私が一番よかったなと思ったことは，三輪さんや矢野さんがとても楽しそうに笑顔でおられたことです。私たちは，三輪さんと矢野さんに気持ちよくきていただくためにじゅんびをしてきたので，それができてよかったです。三輪さんと矢野さんに会うまでは，目が見えなくてかわいそうとか思ったこともあったけど，目が見えなくてもいろいろなことをしておられてすごいなと感じました。歴史館の発表では，自分たちが調べたことがうまく伝わるように，資料を見せるのではなく，大きな声で言おうとみんなで考え，発表できました。私は点字をつくって読んでもらおうとがんばりました。伝わったかはわからないけど，私がつくった点字をさわってもらったときはうれしかったです。　（児童Ｂ）

この子どものふりかえりから，２回目の交流会に向けて常に目の不自由な方のことを考え，どのように表現したら自分たちの思いが伝わるかを考えて準備してきたことが分かる。目の不自由な方と出会うことで，知らなかったことを知り，感じなかったことを感じることが出来たこの体験を通して，相手意識をもって行動することの大切さに気付くことのできた実践となった。その一方で，自分の思いが行動に表れていない姿も見られた。高学年に向けて，課題を自分のものとしてとらえ，行動に移すことのできる子どもを育てるために，一人一人の思いを語り合う学び合いの場を大切にしていく必要がある。この学習で目指すものに気付き，行動として表せる姿につなげていくことが今後の課題である。

「松江旅行ガイドブック」をつくろう

１　目標

松江の観光名所や物産について調べ，松江のよさを再発見する旅行を計画・実行し，そのよさを伝えるガイドブックを作成・紹介する活動を通して，自分たちがしたいことの実現のために仲間同士で意見を調整して実行することができる。また，それをふりかえることの大切さに気付き，社会の中での自分たちの活動の意義を確認することができる。

２　本活動で育成したい資質や能力

○ 自分たちが調べたいこと，行きたいところ，伝えたいことを明確にして，よりよく実現できるように工夫する力（こだわり）
○ 活動の見通しをもち，仲間同士で意見を調整しながら実行する力（かかわり合い）
○ 自分たちの活動を振り返り，自分たちの活動の意義を確認し，次につなげる力（ふりかえり）

３　活動の流れ（全36時間）

○ 松江の観光名所や物産についての調べ活動（８時間）
○ 松江旅行の計画と実行（20時間）
○ 松江旅行ガイドブックの作成と紹介（発表と展示）（８時間）

４　願う姿と子どもたちの取組より

⑴ 松江の観光名所や物産についての調べ活動

① この活動で願う姿

これまでの経験や家族へのききとりをもとに，松江の観光名所や物産について仲間と詳しく調べる活動を通して，自分が調べたいことについて詳しく調べる方法を考えたり，調べたことを振り返って松江のよさに気付いたりすることができる。

② 子どもたちの取組より

【主な学習の流れ】

1　「松江」に関するイメージマップづくり
2　調べたいカテゴリー決定と調べ活動
　・インターネットによる調べ活動
　・レイクライン乗車による調べ活動
　・直接体験（夏休みの活動）
3　調べたこと紹介
4　ふりかえり

「３　調べたこと紹介」後の日記より

夏休み中に調べたことを伝え合いました。松江城の石垣のことは知らない人もいたので，直接行って写真をとってきてよかったです。でも，友だちの調べていた八重垣神社の鏡の池のことは知りませんでした。行ってみたいと思ったし，松江にはたくさんのひみつがまだまだあるのだなと思いました。

⑵ 松江旅行の計画と実行

① この活動で願う姿

⑴のふりかえりをもとに，松江旅行を計画・実行する活動の際，自分たちが行きたい旅行の実現のために仲間同士で意見を調整して計画したり，旅行の当日にはその場で松江のよさを感じたりすることができる。

② 子どもたちの取組より

【主な学習の流れ】

1　(1)のふりかえりをもとにした，行きたい場所の明確化

2　班決定と旅行計画書作成活動

・行きたい場所の調整

・旅行のテーマ決め

・予算や時間の決定

3　松江旅行

4　ふりかえり

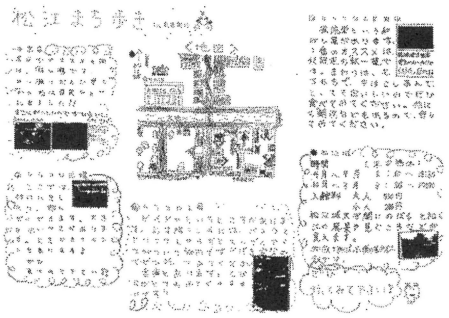
「3　松江旅行」後の日記より

和がしのお店では，和がしもおいしかったけど，とても親切で，くわしく教えてくださったことがうれしかったです。予約して行けたこともあり，時間が余ったので，友だちと話し合って，松江城の広場で遊ぶことにしました。最後までじゅう実した旅行でした。

(3) 松江旅行ガイドブックの作成と紹介

① この活動で願う姿

(2)のふりかえりをもとにした，旅行のテーマにあったガイドブックになるように，相手意識をもって工夫して表現したり，自分たちの活動の意義を確認し，次に自分ができることを考えたりすることができる。



② 子どもたちの取組より

【主な学習の流れ】

1　(2)のふりかえりをもとに，伝えたいことの明確化

2　ガイドブック制作活動

・ガイドブックの大枠作成

・ガイドするお店への了解

・ガイドブック紹介の練習

3　ガイドブックの紹介と展示

4　ふりかえり

「2　ガイドブック制作活動」中のふりかえりより

松江に観光にきた人のためにガイドブックをつくっています。私たちが見た気持ちや食べた気持ちをかくと，行ってみたくなるかなと思って作っていますが，一つ一つがつながっていないと指てきされて，「なるほど！」と思いました。観光客のためにもっとよくなるように，みんなで工夫していきます。

5　成果と課題

活動終了後，５年生全員に次の項目でアンケートを実施した。（○：一番意見が多かったもの）

①松江旅行の活動の中で，自分が一番行きたかったところや一番伝えたかったところは何ですか。	②同じ班の仲間と話し合うときや一緒に活動するときに，大切にしたことは何ですか。	③松江旅行の活動を通して，実際の生活等でいかされたことやいかすことができそうなことがありますか。
○松江のよさ ・歴史（松江城や神社など） ・自然　・観光名所 ・人のやさしさ ・食べ物（しじみや和菓子）	○一人一人が意見をいうこと ・友だちの意見をきくこと ・意見をまとめること ・全員が納得するようにする ・盛り上げるところ　・笑顔	○計画性　・あいさつ ・お金や時間の使い方 ・松江のよさがはっきりといえること ・意見のまとめ方進め方

調べ活動，旅行，ガイドブック作成の３段階で松江の観光名所や物産を追求できるようにしたことで，全員が歴史や食べ物などそれぞれの松江のよさに気づくことができた（アンケート結果①）と確信している。その中で，約半数の子どもが「一人一人が意見をいうこと」が大切答えているところを見る（アンケート結果②）と，意見を調整することはもちろんのこと，よりよい旅行にするためには一人一人が自分の考えを伝え合うことの必要性に気付き始めていることが分かる。また，アンケート結果③から，約７割の子どもが計画性の大切さを感じているところを見ると，ふりかえりの必要性と具体的な計画力の大切さに気付いていることが分かる。このように考えると，林間学校、臨海学校、修学旅行で育てる力とのつながりが大きく、そのつながりの中の今回の取り組みの位置付け（ねらい）を具体的にしておくことが大切である。

「子どものお店」を開こう

１　目標

下級生が楽しめるお店をつくるために，先を見通して今の自分たちがすべきことを仲間とともに考えたり，お客さんである下級生への接し方を考えたりするなど，相手の立場に立って考え，行動することを通して，社会の中で貢献することのできる自分の役割に気付く。

２　本活動で育成したい資質や能力

○ 相手の立場に立って考えることで，自分がすべきことを適切に判断し，行動する力（こだわり）
○ お店の企画・運営における自分のすべきことについて，全校のみんなのためにという視点から仲間同士で意見を調整し，実行する力（かかわり合い）
○ 学校という枠の中における社会の一員として，他者のために貢献するための自分の役割に気付くことのできる力（ふりかえり）

３　活動の流れ（全46時間）

○ 子どものお店：リサイクルしてつくって遊ぼう（全14時間）
○ 夏祭り：子どものお店（全20時間）
○ 子どものお店：レッツエンジョイ！チャレンジランキング（全12時間）

４　願う姿と子どもたちの取組より

⑴ 子どものお店：リサイクルしてつくって遊ぼう

① この活動で願う姿

５年生１月の内容が，企画・運営のしやすい「つくる」ことに重点を置いたものであり，その発展として，お客さんの立場を考えながら「つくって遊ぶ」ことまで企画・運営する。また，初めて参加する１年生のことも考えたお店を企画・運営をする。

② 子どもたちの取組より

【主な学習の流れ】

1　ガイダンス
2　お店のメンバー・内容決定
3　物品準備，進行計画づくり
　・進行カード，紹介ポスターづくり
　・予算立てと物品の準備
4　「子どものお店」を開こう
5　ふりかえり

活動全体のふりかえりより（波線は育成したい資質・能力に関わりのある部分：以下同様）

最初は，わりばしだけの小さな弓矢だったけど，みんなでお客さんのことを考えて「ここはいい」とか「ここはだめではないか」などと話し合い，当日までいくことができた。でも，途中に失敗もあって，時間に間に合わなかったり，物品をもらえなかったりした。でも，その失敗を無駄にしないでリベンジできるように一つ一つ丁寧にやっていくことで，お店の団結力も高まり，前よりもいいものにしていくことができてよかった。次の夏祭りのお店では，今自分は何をすべきなのかを考えて行動したい。また，もうちょっと余裕のある計画にして，何でも対処できるようにしたい。

⑵ 夏祭り：子どものお店

① この活動で願う姿

お客さんが開いているお店に自由に行くような設定にすることで，不特定多数のお客さんに店員として対応するという経験を生み出し，より様々な人の立場を考え，臨機応変な対応をとりながらお店を企画・運営する。

② 子どもたちの取組より

夏祭りのお店づくりでは，これまでのお店づくりの活動とは異なり，子どもたちで自分たちがお店でしたいことをもとにメンバーを決めて活動した。また，お客さんとなる子どもたちもこれまでのお店の活動とは違い，自分たちで行くお店を決めながら，6年生が企画した内容を楽しんでいた。この活動では，祭りということもあり，出店の雰囲気を味わえるよう，お客はお店を見ながら自分たちの行きたいところに行く，というものである。よって，お店を開く側には一体何人のお客が来るか事前には分からず，臨機応変な対応が求められるところであるが，これまでのお店づくりの経験をいかし，お客さんとの会話を楽しみながらお店づくりに取り組む6年生の子どもの姿を見ることができた。

⑶ 子どものお店：レッツエンジョイ！チャレンジランキング

① この活動で願う姿

これまでに経験してきたお店づくりのまとめという位置付けで，再びお客をあらかじめ決め，これまでの学びをいかして様々人の立場を考え，自分のできることを考えながらお店を企画・運営できるようにする。

② 子どもたちの取組より

【主な学習の流れ】

1　ガイダンス
2　お店のメンバー・内容決定
3　物品準備，進行計画づくり
　・進行カード，紹介ポスターづくり
　・予算立てと物品の準備
4　「子どものお店」を開こう
5　ふりかえり

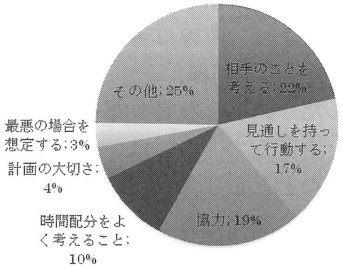
活動全体のふりかえりより

私のお店は「附小ゲームセンター」で，手作りのUFOキャッチャーやスロットなどをしました。UFOキャッチャーでは，並ぶ時になかなか早く並んでもらえなかったので，「早く並んだチームはボーナス10点だよ。」とその場で考えて言ってみると，みんなが急にきれいに並んでくれました。また，店員みんなで協力してつくったダンボールの350枚以上のコインが活躍しました。さすがに350枚もあるので，十分に足りました。ゲームが終わる時，お客さんが「えー，もう終わるの？」と言ってくれたのが嬉しく，「やりきった！」という充実感が湧いてきました。次にお店を開く5年生が「参考になった」と言ってくれたので，しっかりバトンタッチができてよかったです。

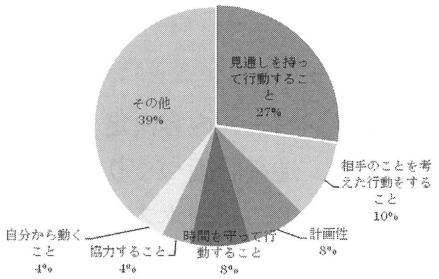
5　成果と課題

3回のお店を開く活動の終了後，6年生全員に下の項目でアンケートを実施した。

①お店を開くことを通して，自分が最も学んだことは何ですか？



②お店を開くことから学んだことで実際の生活（行事や普段のくらし）にいかされたことはどんなことですか？



見通しを持って行動すること，相手のことを考えて行動することの2点が多かった。他者のために何かを企画・運営する中で，したいことを実現するために見通しをもって何をすべきかを考えることの重要性を多くの子どもが気付いた結果である。また，相手のことを考え，内容を考えたり接したりすることに喜びをもち，普段のくらしにいかされたことが分かる。そして，これらを実現するには，ともに実現していく仲間同士での連携，協力の大切さに気付いたことも分かる。すなわち，育成したい資質や能力に照らし合わせると，一定の成果を得たと言ってよいであろう。こうして育った子どもたちの力を，中学校の総合の内容とどのようにつなげ，いかしていくか，具体的な活動内容レベルまで考えていくことが今後の課題であると考える。

人とのふれあい「福祉体験」を通して生き方について考えよう

１　目標

様々な人々の生き方にふれる中で，人を大切にして生きていこうとする生き方を考え，他と共に関わりながら支え合って生きていこうとする態度を育てる。

２　本活動で育成したい資質や能力

○ 様々な人々の生き方にふれる中で，自分なりの疑問や課題をもち，その解決に向けて考えたり行動したりする力（こだわり）

○ 人の良さや立場を認め，積極的に人と関わりながら，自分たちにできることは何か，また相手がどのようなことを願っているのかを考え企画・活動する力（かかわり合い）

○ 学んだことや変化があった自分を見つめ，他に伝えることで，自分のことをさらに深く知る力（ふりかえり）

３　活動の流れ（全34時間）

○ 事前学習１：自分を知る（全２時間）

○ 事前学習２：先輩から学ぶ（全６時間）

○ 福祉体験学習：体験を通して学ぶ（全16時間）

○ ふりかえり：自分を見つめる（全10時間）

４　願う姿と子どもたちの取組より

⑴ 事前学習１：自分を知る

① この活動で願う姿

ガイダンスやマッピングを通して，様々な人々の生き方や価値観にふれ，自分と他の人の考え方の違いを知ることで，人を大切にして生きていこうとする生き方とは何かを考える。

② 子どもたちの取組より

【主な学習の流れ】

1　ガイダンス

2　今の自分を深く知ろう（マッピング）

3　家の人にインタビューしよう

4　違いから学ぼう

> **事前学習１のふりかえりより**
> **（波線は育成したい資質・能力に関わりのある部分：以下同様）**
> ・親や兄弟でも，僕と違う考えをもっていることが分かりビックリしました。しかし，考え方が違うということは，とても素晴らしいことだと思いました。
> ・友だちの考えを聞いて，自分と同じことを考えていることが分かりました。しかし，大切にしていることが同じでも，理由が一人一人違っていて，その理由を聞くのが楽しかったです。

⑵ 事前学習２：先輩から学ぶ

① この活動で願う姿

他と共に関わりながら支え合って生きている人生の先輩たちの経験談や考え方，生き方についての講演を聞くことで，様々な考えをもち，様々な生き方をしている人々がいることを知る。その生き方に出会うことから，自分たちにできることは何か，また自分の周りの人がどのようなことを願っているのかを考える。

② 子どもたちの取組より

【主な学習の流れ】

1　講演を聞き，他から学ぼう

2　ふりかえり

(3) 福祉体験学習：体験を通して学ぶ

① この活動で願う姿

高齢者や福祉施設の職員との交流を通して，相手の立場になって物事を考えたり，相手の心の痛みや願いを感じたりする。自分たちにできることは何か，また相手がどのようなことを願っているのかを考え企画・活動する。

② 子どもたちの取組より

【主な学習の流れ】

1　ガイダンス
2　講演「福祉とは」を聞こう
3　校歌で気持ちを伝えよう
　（相手に気持ちを伝えるための心構え）
4　交流内容を企画しよう
5　アドバイスをもらい，交流内容をさらに良いものにしよう（福祉施設事前訪問）
6　高齢者の方と交流し，さまざまな生き方を学ぼう
7　高齢者施設で働いておられる方にインタビューしよう

福祉交流学習のふりかえりより

・僕が交流先で出会った高齢者の方は，大きな声で話さないと分かってもらえず，大きな声で話すことが大変でした。でも，会話をしていくうちに，はっきりした声で，内容を整理してから話をすると，伝わりやすくなるのが分かり，高齢者の方にも僕の話していることが分かってもらえて嬉しかったです。
・事前訪問でどのような方が入所しておられるのか教えてもらえたので，何が一緒に楽しめるのか，どのようなことをすれば喜んでもらえるのかを話し合うことができました。

(4) ふりかえり：自分を見つめる

① この活動で願う姿

今まで学んだことや変化があった自分を振り返り，他に伝えることで，自分をより知ることができる。

② 子どもたちの取組より

【主な学習の流れ】

1　新聞作りをして，活動を振り返ろう
2　発表会をして，自分の気持ちを伝えよう

5　成果と課題

活動の終了後，アンケートを実施し，以下の結果になった。

項目	内　　容	A	B	C
①	活動の内容や自分が考えたり感じたりしたこと，変化のあった自分について分かりやすく新聞にまとめたり，全体やクラスで発表したりできた。	81%	17%	2％
②	先生や交流先の方と相談したり，相手のことを考えたりしながら計画や準備ができた。	61%	37%	2％

項目①や生徒のふりかえりから，学んだことや変化があった自分を見つめ，他に伝えることに関しては，意識の高い生徒も多く，活動後には自分のよさや課題点を見付けていることが分かる。一方，人と関わる活動（項目②）では，半数の生徒が十分満足いく結果が得られなかったと回答した。このような活動では，今まで学んだ知識や技術をいかしながら，その場で自分の考えや思いを伝え，企画・活動していかなければならない。相手を意識した活動を繰り返し行い，活動を振り返り，自分を見つめる時間を設けることでさらに自分を深く知り，他と共に関わりながら支え合って生きる態度を育てていくことが今後の課題である。

「職場体験学習」を通して学んだことを生活にいかそう

１　目標

社会で働く人々とのふれあいを通して自分自身の生き方を振り返り，職場で働くことによって，将来の自分を展望し，体験したことや学んだことをこれからの生活にいかすことができるようにする。

２　本活動で育成したい資質や能力

○ ひと・もの・ことを自分なりに見つめ，学習課題を設定して主体的に学び，自ら積極的にひと・もの・ことに働きかけようとする力（こだわり）
○ 実社会での体験学習を通し，生きることの喜びや難しさを味わったり，人の温かさや素晴らしさを自分なりに学んだりする力（かかわり合い）
○ 自らの学びを振り返り，成長の跡を見つめ直すことで，自分自身の生き方を自分なりに考え，これからの生活にいかそうとする力（ふりかえり）

３　活動の流れ（全38時間）

○ 事前学習：働くことについて考え，知ろう　（全９時間）
○ 職場体験：実際に事業所へ行き職場体験学習をしよう　（全18時間）
○ 発表会：振り返り，学んだことを発表しよう　（全11時間）

４　願う姿と子どもたちの取組より

⑴ 事前学習：働くことについて考え，知ろう

① この活動で願う姿

職場における仕事の実態と，苦労ややりがいなどの働く人の思いに触れることで，社会人としての生き方についての理解を深める。

社会人の生き方を通して自分の考え方や生き方を振り返り，職場体験学習への意欲を高める。

② 子どもたちの取組より

【主な学習の流れ】

1　ガイダンス
2　職場体験希望調査
3　講演会
4　事前指導
5　事前訪問

講演会後のふりかえりより

僕は表で働いている人しか知らないけれど，他にも裏では出版や手続きなど大変だということが分かりました。また，どれも様々なところにやりがいがあることを知り，自分が職場体験させて頂く職場の方がどのような仕事をしていて，どういったことにやりがいを感じているかについて，しっかりとつかんでいきたいです。働いておられる方のお話を聞いて，働くとこについての視野が広くなった気がします。　（生徒Ａ）

⑵ 職場体験：実際に事業所へ行き職場体験学習をしよう

① この活動で願う姿

社会で働く人々とのふれあいを通し，自分自身の生き方を考える。また，自分たちの住んでいる地域や職場について理解を深め，そのよさを発見する。

②子どもたちの取組より

職場体験

職場体験学習のふりかえりより

実際にパン作りを体験させてもらい，想像以上にとても難しく大変だということが分かりました。この３日間で僕が学んだことは２つあります。１つ目は「疲れた」などと言わずに自分が精一杯できるところまでやってみるということです。２つ目は常にお客さんがこのお店に来て良かったと思えるように，最高の状態に準備をしていたことから，周りに気を配り，様々なことを考えて自ら行動することの大切さを学びました。今回学んだことを無駄にしないように，自分の成長につながるようにしていきたいです。（生徒Ｂ）

⑶ 発表会：振り返り，学んだことを発表しよう

① この活動で願う姿

体験を共有し，職業や仕事に関する知識・理解を深める。職業の意義・役割についての理解を広め，深める。

② 子どもたちの取組より

【主な学習の流れ】

1　職場体験のまとめ
2　礼状書き
3　新聞制作
4　発表会準備
5　発表会（全体発表・対面発表）
6　発表会のふりかえり
7　自己評価

発表会後のふりかえりより

発表会では，私と違う事業所に行って仕事をした人たちは，私が行った保育所とはまた違うことを学んだり，感じたりしていることが分かりました。また，事業所は違っても，仕事の大変さの中に，やりがいを感じられたことや，あいさつの大切さを改めて実感したことは同じでした。

１年生を前にしての対面発表では，自分なりに相手に伝わるように発表したので，１年生に来年実際に行う職場体験のイメージや，職場で大切にしなければならないことが伝わっているといいと思います。（生徒Ｃ）

5　成果と課題

活動終了後，自己評価を行った。

項目	内　　容	A	B	C
①	自分自身の成長を様々な観点からとらえることができた。	55%	37%	8 %
②	様々な人たちの価値観や生き方に触れ，自分の在り方を見つめることができた。	64%	34%	2 %
③	自分の良さや可能性を大切にしながら，今後の自分作りについて課題をもつことができた。	86%	31%	3 %

生徒の自己評価から，③では86％の生徒が今後の自分作りについて課題をもつことができたと答えている。また，「自分の得意なことやできることを知る機会が多かった」「自分に足りないところを見つけることができた」「挨拶や礼儀などを普段からできるようにしていきたい」というふりかえりもあり，自分の可能性を見いだし，今後の生活にいかしていこうとする姿が見られる。しかし，①②で「働くことの大変さや，やりがいを感じた」「頼られる仕事をして自分の成長を感じた」というようなふりかえりを書いている生徒がいる一方で，「成長したことが自分では分からない」と書いている生徒もいた。今後の課題としては，二つ挙げられる。一つ目は，自分の成長を実感できていない生徒に対する手立てである。二つ目は，生徒自身が課題を見付け，今後の生活で生徒が学びをいかした行動ができるようにすることである。今後は，総合的な学習の時間だけでなく，教科や学活・道徳などの時間を活用し，系統的に支援を行い，自己の興味・関心を生かした進路や生き方を考えることができるようにすることが求められる。

社会に生きる一員として「地域社会貢献活動」をしよう

１　目標

地域社会の中で，他と共に生きる喜びと意味を考え，社会における課題を発見し、主体的に解決していこうとする。生徒一人一人が各自の興味・関心，得意なこと，よさをいかして，社会のために役に立てる活動を行う。活動を通して学んだことをその後の生活や将来設計に役立てる。

２　本活動で育成したい資質や能力

○ 地域社会の課題を発見し，自分のよさをいかして，主体的に解決しようとしていく力（こだわり）
○ 友だちや地域社会の方とのかかわり合いを通して，課題解決のために意見を調整し，見通しをもって企画・実践する力（かかわり合い）
○ 活動を通して学んだことを，自分自身のその後の生活や将来設計に役立てる力（ふりかえり）

３　活動の流れ（全23時間）

○ 事前学習：自分自身の興味・関心，得意なことを知り，それらをいかして地域社会の課題を解決するために何ができるか考えよう（全５時間）
○ 地域社会貢献学習：実際に地域社会で活動をしよう（全12時間）
○ 発表会：活動を振り返り，学んだことを伝えよう（全６時間）

４　願う姿と子どもたちの取組より

⑴ 事前学習：自分自身の興味関心，得意なことを知り，それらをいかして地域社会の課題を解決するために何ができるか考えよう

① この活動で願う姿

地域社会のひと・もの・ことと関わりをもちながら，１・２年生の総合的な学習の時間で学習してきた内容をいかし，また，自分自身のよさ，得意なこと，興味関心の高いことをいかすことができる中学生として社会のために役立つ活動を企画・立案する。

② 子どもたちの取組より

【主な学習の流れ】

1　全体ガイダンス
2　活動にいかせる自分のよさを知ろう
3　地域社会の課題を整理しよう

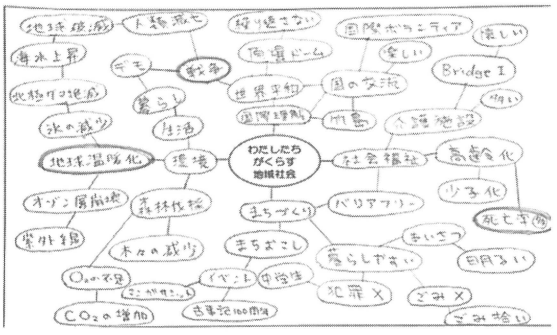


図１：わたしたちのくらしと地域社会のかかえる課題

ガイダンス当初は，地域社会貢献活動というテーマが壮大すぎて，中学生である自分たちに何ができるか不安に感じている生徒もいた。マッピングを興味・関心が共通の生徒同士で見ながら話し合うことで，何が課題であるかが整理できた。それを小テーマとしたことで活動に向けて具体的なイメージをもつことができるようになり，「実際の活動ではどのようなことが可能であるか」というように，話し合いがより具体的になっていった。

⑵ 地域社会貢献活動：実際に地域社会で活動をしよう

① この活動で願う姿

自分が気付いた地域社会の課題を解決するために，友だちや地域社会の方とのかかわり合いを通して，中学生にできる地域社会貢献活動を企画・実践する。

② 子どもたちの取組より

【主な学習の流れ】

1　調査学習と活動計画書作成

2　地域社会貢献活動

自分たちが計画した活動内容について調べ学習を行い，見識を深めた。対外的に何か物事を始めるために，交渉が必要な場合は連絡をとり，生徒自身で渉外活動を行った。各グループで調べたり交渉したりしたことをもとに，活動内容を練り上げていった。地域社会の中の課題には，各自の得意なことや興味ある分野の知識などを生かせる課題があることも分かり，活動への意欲が高まった。１日３時間ずつの活動を２日間行う中で，いつどこでどのような活動をするかを具体的に時系列で表す企画書を作成した。何のために，何をねらって活動を行うかという目的もはっきりとさせた。

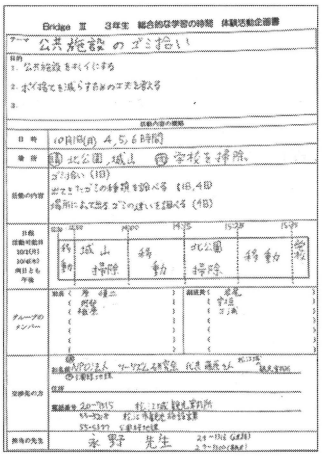


図２：活動計画書

⑶ 発表会：活動を振り返り，学んだことを伝えよう

① この活動で願う姿

活動を通して学んだことを，友だちと共有し合うことや，下級生に伝えることを通して確かなものにし，それを自分自身のその後の生活や将来設計に役立てることができる。

② 子どもたちの取組より

【主な学習の流れ】

1　社会貢献学習のまとめ

2　新聞作成

3　発表会準備

4　発表会（全体発表・対面発表）

5　発表会のふりかえり

6　自己評価（学習全体のふりかえり）

> **全体発表会後のふりかえりより**
>
> 「自分で考えて社会貢献活動をしてほしい」というアドバイスを２年生はちゃんと受け取ってくれてよかった。社会貢献活動にはそれぞれ違いがあるけれど，どの活動も今の松江に必要である問題，また今後考えていかなければならない問題について考えてあった。自分の思う活動をするには正しく計画を立てることが大切だと思った。
>
> （生徒Ａ）

５　成果と課題

生徒のふりかえりで最も多かったのは，「意味ある内容の活動を，見通しをもって計画すること」「周りの人と協力すること」を大切にしなければならないというものだった。また，「地域の方の支えがあってこそ生活できる」というものもあった。中学生なりの視点で地域のことを考え，そこで暮らす一員として友だちと協力して何らかの活動ができたのは一つの成果であった。しかし，このような活動が単発の企画として終わるのではなく，自分の得意なことや，できることを今後もいかせるような活動を，学習時間に，あるいはそれ以外のところで設定して，生徒自身に社会参画の意識をもたせることも大切なのではないかと考える。

> **学習全体のふりかえりより**
>
> 一番成長したと思うことは，「計画を立て，それを自ら実行すること」で，決して簡単なことではなかったが，グループでの協力があったからこそ，計画にきちんと沿って取り組めたと思う。
>
> 計画を立てるときも，みんなと意見を交わすことで，より確実な計画を立てて，見通しをもつことができるようになった。
>
> （生徒Ｂ）